

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部 子ども発達学科	准教授	白井 克尚
最終学歴	学位	専門分野
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科	博士（学校教育学）	社会科教育、生活科教育、総合的な学習の時間

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

学生主体の問題解決型の学習活動を組織し、保育者、幼稚園教諭、小学校教員として必要な実践力、表現力、企画力、協働する力の育成をめざす。

【目標】

保育者、幼稚園教諭、小学校教員として必要な実践力、表現力の育成をめざした教育方法の実践に積極的に取り組んでいく。また、地域の教育諸機関と連携したサービス・ラーニングを通じた教育活動を通じて企画力や協働する力を育む。

【方針】

講義・演習ともに、学生の興味・関心を大切にし、個々の問題意識にもとづいた学習活動を組織し、指導する。

【計画（方法）】

サービス・ラーニングの実践を通じて、主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動を組織し、指導を行っていききたい。また、小学校教育実習担当として、学生の小学校教育実習、小学校教員採用受験のサポートに引き続き取り組み、教職を志望する学生を支援する取り組みを進める。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、教育実習Ⅱ（小学校）、教育実習事前及び事後の指導（小学校）、社会科教育法、生活、総合演習Ⅰ、総合的な学習の時間の指導法（小学校）、総合的な学習の時間の指導法（中・高）、専門演習Ⅰ

（後期）

サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、教職実践演習（幼・小）、社会、生活科教育法、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

教育方法の実践として、「教育実習Ⅱ（小学校）」「教育実習Ⅱ事前事後指導」の授業では、模擬授業指導等を行い、学生の小学校での教実習経験をサポートできた。「教職実践演習（幼・小）」の授業では、各グループのテーマに基づいたプロジェクト型の調べ学習や模擬授業を行い、4年間の教育課程の学修の振り返りを行った。「総合的な学習の時間の指導（小学校）」、「総合的な学習の時間の指導（中・高）」の授業では、グループワークと教材開発を行い、学生の「総合的な学習の時間」に関する理解を深めた。「社会」の授業では、地域における教材研究を行い、小学校社会科の授業づくりについて理解を深めた。「社会科教育法」の授業では、模擬授業を通じて、小学校現場を想定し

た社会科授業について考えさせることができた。「生活」の授業では、実践記録の分析をもとに生活科の授業づくりのあり方について考えさせることができた。「生活科教育法」の授業では、模擬授業を通じて、小学校現場を想定した生活科授業について考えさせることができた。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「総合演習Ⅰ・Ⅱ」「総合演習Ⅰ・Ⅱ」の授業では、ゼミ内で協力しながら活動し、交流を深めることができた。「サービス・ラーニング実習Ⅰ・Ⅱ」の授業では、実習先との連絡・調整を行い、学生に有意義な経験を積ませることができた。

○作成した教科書・教材

学生の授業への内容理解を促すために、自作プリントや、スライド資料、動画教材を編集、作成した。とりわけ、「教育実習Ⅱ事前事後指導」の授業では、『教育実習Ⅱ事前事後指導資料』を作成し、教育実習に向けての理解に役立てた。また、「サービス・ラーニング実習Ⅰ・Ⅱ」の授業では、『サービス・ラーニングハンドブック<第9版>』をサービス・ラーニング委員の先生方と共同で編集した。

○自己評価

教育活動に関する自己評価として、実習科目の指導に意欲的に取り組むことができたことがあげられる。とりわけ、「教育実習Ⅱ（小学校）」「教育実習Ⅱ事前事後指導」の授業では、担当教員間で協働して授業運営を行うことにより、小学校現場経験を踏まえた指導を行うことができた。その結果、小学校教員採用試験合格者を多数輩出することができたことも、大きな成果であった。また、「教職実践演習（幼・小）」の授業では、履修カルテの作成や模擬授業等を通じて、4年間の教職課程の集大成として学習を振り返らせることができた。

また、「社会」「社会科教育法」「生活」「生活科教育法」「総合的な学習の時間の指導（小学校）」「総合的な学習の時間の指導（中・高）」の授業では、ペアやグループでの活動を多く取り入れ、学生同士の交流を深めることができた。今後も交流が深まるような授業に取り組んでいきたい。

II 研究活動

○研究課題

子どもがつながる社会科・生活科・総合的学習実践に関する基礎的研究

○目標・計画

【目標】

本研究の目標は、子どもがつながる社会科・生活科・総合的学習実践に関して、実践事例に基づき、資料分析を通じて、その実態と意義を解明することをめざす。

【計画】

本研究の計画および方法は、子どもがつながる社会科・生活科・総合的学習実践に焦点を当てて、資料収集及び分析的検討を行う。子どもがつながる社会科・生活科・総合的学習実践事例として、総合学習黎明期における鈴木佳樹実践や、1990年代の生活科誕生期における実践、イギリスのパブリック・アーケオロジーの視点を生かした総合学習実践などがある。資料分析によりそれらの実態を解明し、その意義を明らかにする。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・共著：担当部分「第3章1節 日韓歴史教育史の中の「解釈型歴史学習」－山本典人の授業「日の丸抹消事件」の歴史的意義－」土屋武志・白井克尚編著『グローバル社会における解釈型歴史

学習の可能性』帝国書院, 2024年3月, pp.114-125

- ・共著: 担当部分「第2章7 第6学年・子どもや教師が世界と共につながる社会科学習」土屋武志・真島聖子・白井克尚編著『子どもがつながる社会科の展開—地域・世界と共—』日本文教出版 2024年3月, pp.192-205
- ・共著: 担当部分「第3章 総合的な学習の時間の指導法におけるアクティブ・ラーニング」「第8章 幼小接続・連携を担う教員養成におけるアクティブ・ラーニング—教育学部総合演習における森林環境教育をテーマとしたプロジェクト型学習を通じて—」(白井克尚・柿原聖治) 愛知東邦大学地域創造研究所編『教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究』唯学書房, 2024年3月, pp.45-60, pp.117-128
- ・共著: 担当部分「第3章「創設期における総合的な学習の時間の実践が目指し育んだ「生きる力」の実際—「認知能力」と「非認知能力」の調和的成長—」中野真治・加藤智編著『資質・能力時代の総合的な学習の時間—知性と社会性と情動のパースペクティブ—』三恵社, 2023年3月20日, pp.53-71
- ・共著: 担当部分「歴史の学び方, 調べ方(2)身近な地域の歴史を調べる」梅津正美・山内敏男編著『板書&展開例でよくわかる 主体的・対話的で深い学びでつくる 365日の全授業 中学校歴史』明治図書出版, 2023年3月10日, pp.34-41
- ・共著: 担当部分「5章4節 社会科における野外観察・地域調査」原田智仁編著『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて— [第3版]』教育情報出版, 2023年1月, pp.97-100
- ・共著: 担当部分「第3章3節 観察・調査を活用した授業デザイン」原田智仁編著『初等社会科教育の理論と実践—レリバンスを求めて—』教育情報出版, 2022年9月, pp.61-64
- ・共著: 担当部分「5章4節 社会科における野外観察・地域調査」原田智仁編著『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて— [第2版]』教育情報出版, 2021年1月, pp.97-100
- ・単著『戦後日本の郷土教育実践に関する歴史的研究—生活綴方とフィールド・ワークの結びつき—』唯学書房, 2020年3月
- ・共著: 担当部分「5章4節 社会科における野外観察・地域調査」原田智仁編著『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて—』教育情報出版, 2020年1月, pp.97-100
- ・共著: 担当部分「第6章 公民教育における学習指導の工夫 4 討論授業の組織化」日本公民教育学会『新版 テキストブック公民教育』第一学習社, 2019年12月, pp.223-225
- ・共著: 担当部分「第1章 中学歴史「見方・考え方」を育てる授業デザイン 2 「見方・考え方」を育てる見学・調査活動をどう実現するか—博物館・郷土資料館との連携による授業へのヒント—」土屋武志編著『「見方・考え方」を育てる中学歴史授業モデル』明治図書, 2019年9月, pp.16-21
- ・共著: 担当部分「第3章 小学校の授業参観とサービス・ラーニング」 pp.27-37 「第9章 サービス・ラーニング実習におけるリフレクション」 pp.95-110 愛知東邦大学地域創造研究所編『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』唯学書房, 2019年2月
- ・単著『子どもの思いや気づきを生かす生活科の授業づくり—新教科創設期の実践に学ぶ—』(平成27(2015)年度~平成29(2017)年度 JSPS 科研費 若手研究 (B) 課題番号 15K17411 研究成果報告書) 三恵社, 2018年3月, 全70頁
- ・共著: 担当部分「5章4節 社会科における野外観察・地域調査」原田智仁編著『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて— [第2版]』保育出版社, 2018年3月, pp.97-100

(学術論文)

- ・白井克尚「1990年代前半において「総合学習」の実践に取り組んだ教師のゲートキーピングに関する事例研究—原田三朗による「青い目の人形を調べよう」の実践の場合—」日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』第32号, 2025年3月, pp.92-103 (査読有り)
- ・白井克尚「解釈型歴史学習における「歴史的思考」の様式に関する考察—山西正泰実践と加藤公明実践における「対話」場面を手がかりに—」愛知教育大学社会科教育学会『探究』第35号, 2025年3月, 2025年3月, pp.36-43 (査読無し)
- ・白井克尚・行田臣・土屋武志・鈴木佳樹「黎明期においてグローバルな総合的学習を実現した教師支援の実際—愛知教育大学附属岡崎小学校の鈴木佳樹の「君にとどけたい しあわせの花」の実践を事例として—」愛知教育大学教職キャリアセンター『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要』第10号, 2025年3月, pp.33-40 (査読有り)
- ・白井克尚・松久一道・土屋武志「中学校社会科公民分野における「対話」を重視した授業モデルの開発と検証—マインドマップ・ジグソー法・ワールドカフェの活用を通じて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第53巻第1号, 2024年7月, pp.19-37 (査読無し)
- ・Katsuhisa Shirai, Nasution : The Fostering Global Citizenship for Elementary School Students in Japan: Through the Practice of Life Environment Studies "Aim! Yu-Gi-Oh!" *The Indonesian Journal of Social Studies* Vol.7(2) , 2024年6月, pp.83-95 (査読有り)
- ・Katsuhisa Shirai: Archaeology and Hometown Education in Japan : The Efforts of Teachers in Non-government Education Association in the 1950s, 2024年5月, *History of Education Researcher No.113*, pp.13-22 (査読有り)
- ・白井克尚・小林大悟「イギリスにおける歴史を解釈するスキルを育む考古学教育の実践—ヨーク実験考古学研究センターの取り組みを例に—」愛知教育大学社会科教育学会『探究』第34号, 2024年3月, pp.40-47 (査読無し)
- ・白井克尚・平子晶規「有田和正の生活科授業づくり論の特質とその意義—愛知教育大学時代の語りと実践を中心に—」愛知教育大学生活科教育講座『生活科・総合的学習研究』第20号, 2024年3月, pp.1-10 (査読無し)
- ・白井克尚「1970年代・民間教育研究団体による『地域の掘り起こし』の実相—小出隆司の『ぞうれっしやがやってきた』の教材開発を中心に—」愛知教育大学歴史学会『歴史研究』第69号, 2023年9月30日, pp.37-52 (査読有り)
- ・白井克尚・柿原聖治・鈴木順子・堀建治・堀篤実「保幼小接続・連携を担う保育士と教員養成の実践—教育学部・総合演習における森林環境教育を目指したプロジェクト型学習を通じて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第52巻1号, 2023年7月, pp.47-63 (査読無し)
- ・白井克尚・小林大悟「英国のパブリック・アーケオロジーを社会科歴史学習に生かすための視点—ドナルド・ヘンソンの理論と実践をもとに—」愛知教育大学社会科教育学会『探究』第号, 2023年3月31日 (査読無し)
- ・白井克尚・小栗優貴・土屋武志「社会参加を促した総合的学習の実践におけるクロスカリキュラム開発の実際—愛知県西尾市立西尾小学校の「町づくり総合学習」の場合—」『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要』第8号, 2023年3月31日, pp.101-108 (査読有り)
- ・白井克尚・久野弘幸「総合的な学習の時間における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立の試み—創設期の緒川小の教師による「支援」の開発に着目して—」愛知教育大学生活科教育講座『生活科・総合的学習研究』第19号, 2023年3月31日, pp.1-10 (査読無し)
- ・岩本光一郎, 杉谷正次, 水野伸子, 三輪哲也, 小島正憲, 白井克尚, 安井文康, 吉村道孝「入学選抜方法の妥当性: 2016~2018年度入学生の個票データを用いた検証」愛知東邦大学『東邦学誌』第51巻2号, 2022年12月15日, pp.59-66 (査読無し)
- ・山下大喜, 白井克尚, 生島亜樹子, 久野弘幸「愛知県新城市立新城小学校における校内授業研究の基盤構築—渥美利夫による校長室通信『考える』の分析をもとに—」愛知教育大学歴史学会『歴史研究』第68号, 2022年9月30日, pp.1-17 (査読有り)

- ・白井克尚「低学年生活科の教育課程に関するグローバル学習の視点からの一考察—『小学校学習指導要領解説 生活編』と『生活科 教師用指導書』を手がかりに—」愛知教育大学生生活科教育講座『生活科・総合的学習研究』第 18 号,2022 年 3 月 31 日,pp.1-10 (査読無し)
- ・Katsuhisa Shirai : Theory of Lesson Creation for Lower-grade Life Environment Studies in Japan : Focusing on the Narratives and Practices of Social Studies Teacher Kazumasa Arita : The Asian Conference on Education 2021 (ACE2021) :Official Conference Proceedings(ISSN:2186-5892),2022 年 1 月 21 日,pp.419-429 (査読有り)
- ・白井克尚「アクティブ・ラーニングを取り入れた「総合的な学習の時間の指導法」に関する実践研究—新型コロナウイルスの教材化を通して—」愛知東邦大学『東邦学誌』第 50 巻 2 号,2021 年 12 月 27 日,pp.9-21 (査読無し)
- ・白井克尚「戦後生活綴方教育実践における歴史教育と作文指導の結びつき—愛知県西尾幡豆地方の杉浦敦太郎と牧富也の「調べる綴方」実践に着目して—」愛知教育大学歴史学会『歴史研究』第 67 号, 2021 年 9 月 30 日, pp.1-23 (査読有り)
- ・白井克尚「総合的な学習の時間における教室を拠点としたカリキュラム開発の意義に関する一考察—創設期の実践事例の分析を通じて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第 50 巻 1 号,2021 年 7 月 27 日,pp.1-13 (査読無し)
- ・白井克尚,松 婷,土屋武志「学習指導案の事前検討における協働研究の方法—愛知県新城市立新城小学校の校内授業研究に焦点を当てて—」『愛知教育大学 研究報告』第 70 号,2021 年 3 月,pp.110-118 (査読有り)
- ・Katsuhisa Shirai : Social Studies for Civic Education Practice in Japan: A Case of Human Rights Learning through Participatory Approach in Junior High School 3rd Grade. The Indonesian Journal of Social Studies Vol.3(2), 2020 年 12 月, pp. 74 - 83 (査読有り)
- ・Katsuhisa Shirai : NEW PARADIGM OF SOCIAL STUDIES IN JAPAN: CHANGE DUE TO REVISION OF THE 2017 COURSE OF STUDY, PPOCEEDING International Conference on Social Studies (ICSS) 2020,2020 年 10 月,pp.1-9 (査読有り)
- ・山下大喜・白井克尚・土屋武志「社会科授業研究を中核とした校内研究体制の構築」『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要』第 5 号,2020 年 3 月,pp.165-172 (査読有り)
- ・白井克尚・行田臣「生活科において問題解決学習を実現した教師の「学習材研究」の実際—愛知教育大学附属岡崎小学校における白井博司実践を事例として—」日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』第 27 号, 2020 年 3 月,pp.40-51 (査読有り)
- ・白井克尚・原田三朗「子どもの思いや気づきを生かす生活科教師の実践的知識に関する研究—原田三朗実践を事例としたライフストーリー分析を通じて—」愛知教育大学生生活科教育講座『生活科・総合的学習研究』第 16 号,2019 年 12 月,pp.21-30 (査読無し)
- ・Katsuhisa Shirai : Characteristics of Industrial Learning in Japanese Elementary School Social Studies : In the case of the fifth grade “Showdown, Which Manufacturing Show!” The Indonesian Journal of Social Studies Vol.2(2), 2019 年 12 月, pp. 102 - 113 (査読有り)
- ・白井克尚「1950 年代後半の戦後郷土教育運動における渋谷忠男実践「世界地理の学習」の特質—単元「中国のダム」と単元「ヒマラヤの山」を事例として—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 31 号,2019 年 12 月,pp.21-30 (査読有り)
- ・Katsuhisa Shirai : Lesson Study to Create Social Studies Lesson Plans in Japan: The Case of“Logic of Triple-Stacking” at Shinshiro Elementary School. Journal of Social Studies Education in Asia, Vol.8 (2019), 2019 年 10 月 pp.15-25 (査読有り)
- ・白井 克尚, 松本 卓也「小学校社会科における地域教材を生かした防災教育の授業構成と実践分

- 析—第 5 学年単元「学校・学区の歴史から学ぶ防災学習」の場合—」愛知東邦大学『東邦学誌』第 48 巻 1 号,2019 年 6 月,pp.1-14 (査読無し)
- ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐「生活科カリキュラムにおける教科論の変容とその社会的背景—子どもの生活環境としての「家庭」に注目して—」初等教育カリキュラム学会『初等教育カリキュラム研究』第 7 号,2019 年 3 月,pp.97-109 (査読有り)
 - ・Katsuhisa Shirai: Characteristics of Social Studies Lesson Study in Mikawa Area, Aichi Prefecture, Japan: The Case of 6th Grade “I want to know more about the nearest country, Korea!” The Indonesian Journal of Social Studies Vol 1(2), 2018 年 12 月 pp.108-117 (査読有り)
 - ・白井克尚「問題解決学習を創出した社会科授業研究の論理と実際—愛知県新城市立新城小学校の授業研究システムを手がかりに—」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 135 号,2018 年 12 月,pp.27-39 (査読有り)
 - ・白井克尚・行田臣「主体的・対話的で深い学びを実現した総合的学習の時間のカリキュラム・マネジメントに関する事例研究—小 3『詩のボクシング』の実践の検証を通じて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第 47 巻 1 号,2018 年 6 月,pp.19-36 (査読無し)
 - ・白井克尚「新教科創設期における生活科の授業づくりに関する研究—愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の開発研究を事例として—」日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』第 40 巻 4 号,2018 年 3 月,pp.1-11 (査読有り)
 - ・白井克尚「新教科創設期における生活科のカリキュラム開発に関する研究—愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の『単元指導計画』の作成過程を中心に—」愛知東邦大学『東邦学誌』第 46 巻 2 号,2017 年 12 月,pp.47-67 (査読無し)
 - ・白井克尚『『伝統と文化』に関する総合的学習の意義についての一考察—地域の伝統芸能を生かした実践の検証を通じて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第 46 巻 1 号,2017 年 6 月,pp.1-16 (査読無し)
 - ・白井克尚『『新しい郷土教育』実践史研究の課題と方法—教師のライフヒストリー・アプローチを手がかりに—」兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究科『教育実践学論集創立 20 周年記念特別号』2017 年 2 月,pp.S41-S48 (査読無し)

(学会発表)

- ・白井克尚「アジア発グローバル人材を育てるために社会科教育は何ができるか?」 2024 年度愛知教育大学社会科教育学会 (コメンテーター)、2025 年 3 月 8 日、愛知教育大学
- ・白井克尚「教育学部における地域と連携した活動」2024 年度愛知東邦大学地域創造研究所シンポジウム「地域が教室」(シンポジスト)、2025 年 3 月 1 日、愛知東邦大学
- ・白井克尚「戦後の社会科教育史の文脈で理論と実践はどのように語られてきたのか—戦後の郷土教育の理論と実践を事例として—」全国社会科教育学会 第 71 回全国研究大会 (課題研究 III)、2024 年 10 月 13 日、鹿児島大学
- ・白井克尚・行田臣「黎明期におけるグローバルな総合学習実践の歴史的意義に関する考察—愛知教育大学附属岡崎小学校の鈴木佳樹「君にとどけたい しあわせの花」の実践を事例として—」日本生活科・総合的学習教育学会 第 33 回全国研究大会 (新潟青陵大学) 2024 年 6 月 22 日
- ・白井克尚・小林大悟「英国における考古学教材を活用した歴史教育カリキュラム—ヨーク実験考古学研究センターの取り組みを事例として—」日本社会科教育学会第 73 全国大会,東京学芸大学・筑波大学共催 (オンライン開催),2023 年 10 月 29 日
- ・松久一道・白井克尚・土屋武志「中学校社会科公民分野における『対話』を重視した学習モデル

- の開発と検証ーマインドマップ・ジグソー法・ワールドカフェの活用を通してー」日本社会科教育学会第 73 全国大会,東京学芸大学・筑波大学共催 (オンライン開催),2023 年 10 月 29 日
- ・ Katsuhisa Shirai: Possibilities of Japanese Lesson Study and Comprehensive Learning Time for the 6.0 Era*: INTERNATIONAL CONFERENCE KPTCN and UNIVERSITAS NEGERI MALANG, Challenges and Opportunities for the Development of Science, Technology and Human Civilization in the 6.0 Era* 2023 年 9 月 29 日 (オンライン開催)
 - ・ 白井克尚「日本側提案資料の選択理由『植民地収奪』」歴史教科書比較日韓合同シンポジウムー日韓で共有可能な植民地期関係資料の検討ー (学習院大学国際会議場) 2023 年 7 月 1 日
 - ・ 白井克尚・原田三朗「1990 年代前半・生活科誕生期における教師のゲートキーピングー原田三朗の『青い目の人形を調べよう』の実践を事例としてー」日本生活科・総合的学習教育学会 第 32 回全国研究大会 (相模女子大学) 2023 年 6 月 17 日
 - ・ 渡邊巧・白井克尚・岡田了祐・村井大介「生活科教育の展開を支えた大学教員のオーラルヒストリーーインタビュー調査を通してー」日本生活科・総合的学習教育学会 第 32 回全国研究大会 (相模女子大学) 2023 年 6 月 17 日
 - ・ 白井克尚「植民地朝鮮における「言論統制」への解釈を行う歴史授業モデルの開発ー日韓歴史共通教材としての「日章旗抹消事件」の活用を通じてー」社会系教科教育学会第 34 回研究発表大会 愛媛大学, 2023 年 2 月 18 日~3 月 16 日(オンライン開催)
 - ・ 白井克尚,柿原聖治・鈴木順子・堀建治・堀篤実「幼小接続を目指した森林環境教育を担う教員の養成ー教育学部総合演習におけるフィールドワークを通じてー」初等教育カリキュラム学会 第 7 回大会,広島大学 東広島キャンパス,2023 年 1 月 6 日
 - ・ 渡邊巧・岡田了祐・村井大介・白井克尚「生活科教育における「遊び」をめぐる政策と研究の動向」初等教育カリキュラム学会, 第 7 回大会, 広島大学 東広島キャンパス 2023 年 1 月 6 日
 - ・ 白井克尚・小林大悟「英国のパブリック・アーケオロジーを社会科歴史学習に生かすための視点ードナルド・ヘンソンの理論と実践をもとにー」全国社会科教育学会 第 71 回全国研究大会 福岡教育大学,2022 年 10 月 (オンライン開催)
 - ・ 白井克尚「1970 年代・民間教育研究団体による「地域の掘り起こし」の実相ー小出隆司の「ぞうれっしゃがやってきた」の教材開発を中心に」日本社会科教育学会第 10 回全国大会,信州大学 (オンライン開催),2022 年 10 月 22 日
 - ・ 白井克尚・久野弘幸「総合的な学習の時間の登場と教師による「学びの支援」の創出ー愛知県東浦町立緒川小学校の「個性化教育」実践の展開に着目してー」日本生活科・総合的学習教育学会 日本生活科・総合的学習教育学会 第 31 回全国研究大会 広島三島大会 (オンライン開催) 2022 年 6 月 25 日
 - ・ Katsuhisa Shirai : Theory of Lesson Creation for Lower-grade Life Environment Studies in Japan : The 13th Asian Conference on Education 2021 (ACE2021) :Tokyo, Japan (ビデオプレゼンテーション) , 2021 年 11 月 25 日, Submission Number:61047
 - ・ 白井克尚・久野弘幸「総合的な学習の時間における子どもの個性を生かす教師の「支援法」に関する調査研究ー愛知県東浦町立緒川小学校の実践記録の分析をもとにー」日本教育方法学会 第 57 回大会 (宮城教育大学, オンライン開催) 2021 年 9 月 25 日
 - ・ 白井克尚「創設期における総合的な学習の時間が目指した「生きる力」の実際ー愛知県西尾市立西尾小学校の「町づくり総合学習」の場合ー」日本カリキュラム学会 第 32 回 琉球大学 Web 大会 (オンライン開催) 2021 年 6 月 27 日
 - ・ 白井克尚「創設期における総合的な学習の時間が目指した「生きる力」の実際ー岐阜県美濃加茂市立太田小学校の「大いちょうタイム」の場合ー」日本生活科・総合的学習教育学会 第 30 回全

国大会・静岡（富士山）大学（オンライン開催）2021年6月

- ・白井克尚,生島亜樹子,山下大喜「台湾における低学年「生活」のカリキュラム構造 —「十二年国民基本教育課程綱要」の分析を手がかりに—」初等教育カリキュラム学会 第5回大会,広島大学（オンライン開催）,2021年1月10日,『発表要旨収録』p.17
- ・白井克尚「戦後初期生活教育実践における社会科と生活科の結びつき—愛知県西尾幡豆地方の杉浦敦太郎と牧富也の「調べる綴方」実践に着目して—」日本社会科教育学会第70回全国大会,筑波大学（オンライン開催）,2020年11月27日
- ・白井克尚「総合的な学習の時間における教科横断型のカリキュラム開発と校内授業研究の実際—愛知県西尾市立西尾小学校の「町づくり総合学習」の開発事例に着目して—」日本生活科・総合的学習教育学会 第29回全国大会,山梨大会（ウェブサイト開催）,2020年11月
- ・梅野正信,新福悦郎,福田喜彦,真島聖子,白井克尚,蜂須賀洋一,池野範男,久留島浩,大浜郁子,徐鐘珍「日韓の歴史教科書における植民地関係事項の比較研究」全国社会科教育学会 第69回全国研究大会,鳴門大会（オンライン開催）,2020年10月
- ・Katsuhisa Shirai : New Paradigm of Social Studies in Japan : Change due to Revision of the 2017 Course of Study, Online International Conference on Social Studies 2020, Theme: "New Paradigm of Social Studies", Indonesian Social Studies Association (Apripsi,オンライン開催) ,2020年7月29日
- ・岡田了祐,白井克尚,村井大介,渡邊巧「社会科に関わる民間教育団体はいかに生活科の成立に向き合ったのか—団体刊行物から捉えるもう一つの生活科成立史—」日本教科教育学会 第45回全国大会、愛知教育大学,2019年10月13日,『日本教科教育学会 第45回 大会発表要旨』p.133
- ・山下大喜,白井克尚,土屋武志「社会科授業研究を中核とした校内授業研究体制の構築」日本教科教育学会 第45回全国大会,愛知教育大学,2019年10月13日,『日本教科教育学会 第45回 大会発表要旨』p.133
- ・白井克尚,山下大喜「複線型の授業構想を可能にした校内授業研究体制づくり—愛知県新城市立新城小学校における渥美利夫の果たした役割—」日本教育方法学会 第55回大会、東海学園大学,2019年9月29日,『日本教育方法学会 第55回 大会発表要旨』p.133
- ・松本卓也,白井克尚「地域教材を活用した小学校社会科における防災教育—第5学年「学校・学区の歴史から学ぶ防災学習」を例に—」日本社会科教育学会 第69回全国大会,新潟大学,2019年9月14日,『日本社会科教育学会 全国大会発表論文集』第15号,pp.146-147
- ・白井克尚,行田臣「探究的な学びをつくる生活科教員に必要な教材開発力に関する研究—愛知教育大学附属岡崎小学校時代の白井博司による生活科実践を事例として—」日本生活科・総合的学習教育学会 第28回全国大会 大分大会,佐伯市立鶴谷中学校, 2019年6月15日,『日本生活科・総合的学習教育学会 第28回全国大会 大分大会』P.154
- ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐「社会科の専門家たちは、いかに生活科の構想・発展に取り組んできたのか—成立期における議論とその構造に注目して—」兵庫教育大学,加東市,社会系教科教育学会,第30回研究発表大会,2019年2月10日)
- ・白井克尚「戦後の郷土教育運動における「地理教育」の展開—渋谷忠男の「世界地理の学習」に焦点を当てて—（兵庫教育大学,加東市,社会系教科教育学会,第30回研究発表大会,2019年2月9日）
- ・渡邊巧・岡田了祐・白井克尚・村井大介「中野重人はいかに生活科の構想・発展に取り組んできたのか—生活科教育の具体化とその過程—」初等教育カリキュラム学会, 第3回大会（第4会場）, 広島大学 2019年1月6日
- ・白井克尚「問題解決学習を創出した社会科授業研究の論理と方法—愛知県新城市立新城小学校の

「授業研究システム」を手がかりに― 日本社会科教育学会 第 68 回全国研究大会 (奈良教育大学,奈良市) 2018 年 11 月 3 日 『日本社会科教育学会 全国大会発表論文集』第 14 号,pp.38-39

- ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐・永田忠道「(自由企画型フォーラム)社会科の専門家たちは、いかに生活科の構想・発展に取り組んできたのか―各地域における授業論の語りと実際より―」 全国社会科教育学会 第 67 回全国研究大会 (山梨大学,甲府市) 2018 年 10 月 20 日 『全国社会科教育学会 第 67 回全国研究大会 発表要旨集録』 p.51
- ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐「生活科カリキュラムにおける教科論の変容とその社会的背景―子どもの生活環境としての「家庭」に注目して―」 日本教科教育学会 第 44 回全国大会 (日本体育大学世田谷キャンパス,東京都世田谷区) 2018 年 9 月 8 日 『日本教科教育学会全国大会論文集』 44,pp.20-21
- ・白井克尚・行田臣「主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントに関する事例研究―小 3「詩のボクシング」の実践の検証を通じて―」 日本生活科・総合的学習教育学会 第 26 回全国大会 (札幌市) 2017 年 6 月 16 日 『日本生活科・総合的学習教育学会 第 26 回全国大会 北海道大会』 p.243
- ・白井克尚「地域における多文化共生社会を理解する教員・保育士養成の実践―教育学部ゼミでのフィールド・ワークを通じて―」 第 56 回 愛知県世界史教育研究会,2018 年 3 月 31 日 (愛知大学笹島キャンパス,名古屋市)
- ・Katsuhisa Shirai: Research on Lesson Study for the Curriculum Development of Life Environment Studies During Establishment as a New Subject in Japan, World Association of Lesson Studies(WALS) International Conference 2017 26 November 2017, Nagoya University, Japan, Abstract Number: 20110
- ・白井克尚「愛知県東三河地域における社会科授業研究の系譜に関する一考察―新城市立新城小学校の「授業研究システム」を事例として―」 全国社会科教育学会 第 66 回全国研究大会 (広島大学,東広島市) 『全国社会科教育学会 第 66 回全国研究大会 発表要旨集録』 p.82
- ・白井克尚・原田三朗「小学校教師における生活科授業像の形成過程とその要因―新教科創設期に焦点を当てたライフヒストリー的アプローチを通して―」 日本生活科・総合的学習教育学会 第 25 回全国大会 (豊島区立西池袋中学校,東京都) 2017 年 6 月 17 日 『日本生活科・総合的学習教育学会 第 26 回全国大会 東京大会』 p.116
- ・白井克尚 (招待)「地元埋蔵文化財を活用した体験型歴史学習―ハンズオン―」 第 2 回インタラクティブ・ティーチング中部研究会,2017 年 5 月 27 日 (名古屋大学教育学部,名古屋市)
- ・白井克尚 (ポスター)「新教科創設期(1989-1991)における生活科の授業づくり―愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の取り組みに焦点を当てて―」 ほのくに生活科・総合的学習研究会,2017 年 2 月 (Book Café Nido,豊川市)

(特許)

特記事項なし

(その他)

- ・白井克尚「図書紹介 社会科の評価について考える会編『社会系教科の評価をめぐる理論と実践』 日本社会科教育学会 『社会科教育研究』 第 148 号,2025 年 3 月, pp.50-51
- ・白井克尚「総合的学習の教育」 日本教育方法学会編『日本教育方法学辞典』 学文社, 2024 年 10 月, p.239
- ・白井克尚「反転学習」 日本社会科教育学会編『社会科教育事典 第 3 版』ぎょうせい,2024 年 4 月,

pp.286-287

- ・白井克尚「郷土教育運動」日本社会科教育学会『社会科教育事典 第3版』ぎょうせい,2024年4月, pp.54-55
- ・白井克尚「ラーケーションとは?愛知県初の休み方改革のメリットや課題を解説」寺子屋朝日 for Teachers : <https://terakoya.asahi.com/article/15068310>
- ・白井克尚「図書紹介 宇都宮明子・原田信之(編著)『歴史教師のビリーフに関する国際比較研究—日本・スイス・カナダの三か国調査—』日本学校教育学会『学校教育研究』第38号, 2023年10月5日, pp.236-237
- ・白井克尚「土屋武志先生から贈られた恩を送る」愛知教育大学歴史学会『歴史研究』第69号, 2023年9月30日, pp.162-165
- ・白井克尚「書評 鈴木正行著『民衆思想と社会科教育—社会的構想力を育む教育内容・方法開発—』日本社会科教育学会『社会科教育研究』第148号, 2023年3月31日, pp.50-51
- ・白井克尚「教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究部会」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No.28,2023年3月,p.7
- ・白井克尚「植民地収奪」『日本と韓国の自国史教科書における植民地期関係記述の到達点および共有可能な歴史的事実の検討』科学研究費補助金基盤研究(B)19H0130(2019~2022)研究報告(研究代表者:梅野正信), 2022年8月, pp.91-112
- ・白井克尚「教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究部会」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No.27,2022年3月,p.7
- ・白井克尚「書評 須永哲思『桑原正雄の郷土教育—<資本の環>の中の私達』」『日本の教育史学—教育史学会紀要』第64集, 2021年10月1日, pp.144-146
- ・白井克尚「若手支援企画「フィールドワーカーとしての振る舞いについて考える」に参加して」『日本教育方法学会 第24回研究集会報告書』2021年9月, p.30
- ・白井克尚「生活科の歴史に学ぶ」『日本生活科・総合的学習教育学会 会報』第58号, 2021年4月1日, pp.8-9
- ・白井克尚「研究たより 低学年「生活」の教育課程に関する日台比較研究」『公益財団法人 大幸財団 2020年度 事業報告』2021年3月31日, p.67
- ・白井克尚「教員養成における主体的・対話的で深い学びの実践研究部会」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No.25,2020年3月,p.3
- ・白井克尚「教員と保育士の養成における『サービス・ラーニング』の実践研究部会」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No.24,2019年3月,p.2
- ・白井克尚「郷土教育への関心の現在地」郷土教育全国協議会『郷土教育』第713号,pp.2-3,2018年12月
- ・白井克尚・長坂康代「地域における多文化共生社会を理解する教員・保育士養成の実践—教育学部ゼミでのフィールド・ワークを通じて—」愛知県世界史教育研究会『世界史教育研究』第4号,pp.101-108,2018年6月
- ・白井克尚「「アクティブ・ラーニングの視点を問う—小・中・高・大学で『主体的・対話的で深い学び』を育むために—」」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No.23,2018年3月,pp.4-5
- ・白井克尚「敬慕 黒川知文先生~生涯につながるご縁~」愛知教育大学歴史学会『歴史研究』第64号,2018年3月,pp.191-193

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・愛知東邦大学地域創造研究所共同研究:教職専門性の再構築 研究期間:2024年4月~2025年

3月 研究部会主査: 白井克尚 (研究分担者: 丹下悠史、武寛子、虎岩朋加、岩瀬真寿美、今津孝次郎)

- ・公益財団法人 豊秋奨学会 令和4年研究助成: 英国のパブリック・アーケオロジーの視点を生かした総合学習実践の開発 研究期間: 2023年1月~2025年1月末 代表者: 白井克尚 (研究分担者: 小林大悟)
- ・日本学術振興会 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽) 生活科教育の成立・展開をめぐるオーラルヒストリー (課題番号 22K18628): 教育関係者の記憶を探索する 研究期間: 2022年6月~2025年3月 研究代表者: 渡邊巧 研究分担者: 岡田了祐・村井大介・白井克尚

○所属学会

- 日本社会科教育学会会員 (平成11年4月~)
- 全国社会科教育学会会員 (平成11年4月~)
- 愛知教育大学歴史学会会員 (平成12年4月~)
- 日本生活科・総合的学習学会会員 (平成12年4月~)
- 日本教師教育学会会員 (平成23年4月~)
- 日本学校教育学会会員 (平成24年4月~)
- 社会系教科教育学会会員 (平成24年4月~)
- 教育史学会会員 (平成24年4月~)
- 日本教育方法学会会員 (平成27年4月~)
- 日本カリキュラム学会会員 (平成27年6月~)
- 日本教科教育学会会員 (平成28年4月~)
- 日本教育学会会員(令和6年1月~)
- 日本NIE学会会員 (令和6年2月~)

○自己評価

研究活動に関する自己評価として、個人研究では、研究目標・計画に基づいて、5本の学術論文(内3本査読付き)を刊行することができた。とりわけ、白井克尚「1990年代前半において「総合学習」の実践に取り組んだ教師のゲートキーピングに関する事例研究—原田三朗による「青い目の人形を調べよう」の実践の場合—」日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』第32号, 2025年3月, pp.1-12 (査読有り)、Katsuhisa Shirai: *Archaeology and Hometown Education in Japan : The Efforts of Teachers in Non-government Education Association in the 1950s*, 2024年5月, *History of Education Researcher No.113*, pp.13-22 (査読有り)の論文は、学術研究にインパクトを与えると考える。また、研究目標・計画に基づいて、計3回の学会・シンポジウムへの参加(課題研究、シンポジスト、コメンテーター各1回)を行うことができた。今後も継続して研究活動に取り組んでいきたい。

さらに、愛知東邦大学地域創造研究所共同研究: 教職専門性の再構築(研究部会主査:白井克尚 研究分担者: 丹下悠史、武寛子、虎岩朋加、岩瀬真寿美、今津孝次郎)の研究部会主査として、計4回の学内研究会を開催した。公益財団法人 豊秋奨学会 令和4年研究助成: 英国のパブリック・アーケオロジーの視点を生かした総合学習実践の開発(研究代表者: 白井克尚 研究分担者: 小林大悟)および、日本学術振興会 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽) 生活科教育の成立・展開をめぐるオーラルヒストリー(課題番号 22K18628): 教育関係者の記憶を探索する(研究代表者: 渡邊巧 研究分担者: 岡田了祐・村井大介・白井克尚)の研究を推進し、研究を深めることができた。

今後も学内外と連携した共同研究に積極的に取り組んでいきたい。

なお、2025年度は、日本学校教育学会第39回大会（学会創立40周年記念大会・愛知東邦大学、7月26・27日予定）の大会準備委員長、日本NIE学会第22回研究大会（愛知東邦大学、9月27日予定）の大会実行委員長を務め、学会大会の準備運営を行う予定である。関係者の皆様のご協力をお願いしたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

入試委員会委員、教務委員会委員、地域創造研究所運営委員、小学校教育実習担当、サービス・ラーニング委員会委員長、SLFL（サービス・ラーニング、学校フィールド・ラーニング、子どもフィールド・ラーニング）検討WG委員長など、与えられた仕事に責任をもち取り組んでいきたい。

【計画】

入試委員会委員、教務委員会委員、地域創造研究所運営委員、小学校教育実習担当、サービス・ラーニング委員会委員長、SLFL（サービス・ラーニング、学校フィールド・ラーニング、子どもフィールド・ラーニング）検討WG委員長など、各分掌の担当に責任をもち、協力して大学運営に当たる。

○学内委員等

入試委員会、教務委員会、地域創造研究所運営委員会、幼小課程委員会、サービス・ラーニング委員会委員長、SLFL（サービス・ラーニング、学校フィールド・ラーニング、子どもフィールド・ラーニング）検討WG委員長

○自己評価

大学運営においては、各分掌において、与えられた仕事に責任をもち、それぞれの役割を果たすことができたとして自己評価できる。入試委員として、入試に関わる活動を行うことができた。教務委員として、学部内の意見集約などを行った。地域創造研究所運営委員会では、地域創造研究所の運営に協力することができた。幼小課程委員会では、専門演習ゼミ分け担当として、希望調査、集約を行った。サービス・ラーニング委員会委員長として、「サービス・ラーニング実習Ⅰ・Ⅱ」の授業運営をスムーズに行うことができた。

2025年度カリキュラムより開始する「学校フィールド・ラーニング」「子どもフィールド・ラーニング」の授業について、SLFL（サービス・ラーニング、学校フィールド・ラーニング、子どもフィールド・ラーニング）検討WG委員長として検討を深めた。今後も「学校フィールド・ラーニング」「子どもフィールド・ラーニング」の授業運営について計画を進めていきたい。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

地域と結びついた教育活動・社会活動を展開するため、地域の諸機関との連携を深め、協力・協働した取り組みを進める。

【計画】

地域の教育諸機関と連携した教員と保育士の養成におけるサービス・ラーニングの実践を積極的に推進する。授業においては、近隣小学校や近隣保育園、近隣幼稚園などの名東区を中心とした地

域諸機関と連携した教育活動を進める。また、地域における研究活動を通じて、理論と実践の往還を図る。

○学会活動等

- ・愛知教育大学歴史学会 常任委員（2000年4月～現在に至る）、機関誌『歴史研究』編集委員
- ・*The Indonesian Journal of Social Studies* Reviewer team（2020年4月～現在に至る）
- ・日本社会科教育学会 評議委員、学会誌『社会科教育研究』編集委員（2022年4月～2025年3月）
- ・日本学校教育学会 理事 機関誌『学校教育研究』編集委員（2022年4月～2025年3月）
- ・日本学校教育学会第39回大会（学会創立40周年記念大会・愛知東邦大学）大会準備委員長
- ・日本NIE学会第22回研究大会（愛知東邦大学）大会実行委員長

○地域連携・社会貢献等

- ・東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会 事務局長兼会計（2024年度）
- ・2024年9月24日 誠信高等学校 進路ガイダンス体験授業「小学校教師になるには」講師
- ・2024年10月10-12日 SDGs AICHI EXPO 2024 出展（常滑市 Aichi Sky Expo：愛知県国際展示場）
- ・2024年12月6日 啓明学館高等学校 進路ガイダンス体験授業「小学校教師になるには」講師

○自己評価

社会貢献に関しては、東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会 事務局長兼会計（2024年度）として事務局移転の手続き、会計事務、定例研究会の開催・運営を行うことができた。また、2024年9月24日 誠信高等学校 進路ガイダンス体験授業「小学校教師になるには」講師、2024年10月10-12日 SDGs AICHI EXPO 2024 出展（常滑市 Aichi Sky Expo：愛知県国際展示場）、2024年12月6日 啓明学館高等学校 進路ガイダンス体験授業「小学校教師になるには」講師などの活動を行った。今後も、様々な機会を捉えて、社会貢献活動を行っていきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

近隣小中学校の学外講師や、他大学非常勤講師を担当し、教員養成に関する知見を深め、本学の教職課程運営に生かしていきたい。

また、2025年度は、日本学校教育学会第39回大会（学会創立40周年記念大会・愛知東邦大学8月10・11日予定）の大会準備委員長、日本NIE学会第22回研究大会（愛知東邦大学、9月27日予定）の大会実行委員長を務め、学会大会の準備運営を行う予定である。愛知東邦大学を拠点とした学術的知見の発出に貢献したい。

VI 総括

大学教員として11年目の生活を迎え、落ち着いた環境の中で教育活動・研究活動・社会貢献活動を行うことができた。これも教職員の皆様のご支援・ご協力の賜物である。

教育活動では、とりわけ、実習科目に意欲的に取り組むことができた。「教育実習Ⅱ（小学校）」「教育実習Ⅱ事前事後指導」の授業において、模擬授業を行い、学生の小学校教実習経験をサポートできた。その結果、今年度も、小学校教員採用試験合格者を複数名輩出することができたことが、大きな成果であった。

研究活動では、研究目標・計画に基づいて、論文執筆、学会発表を行うことができた。なお、2025年度は、日本学校教育学会第39回大会（学会創立40周年記念大会・愛知東邦大学7月26・27日予定）の大会準備委員長、日本NIE学会第22回研究大会（愛知東邦大学、9月27日予定）の大会

実行委員長を務め、学会大会の準備運営を行う予定である。関係者の皆様のご協力をお願いしたい。

大学運営においては、各分掌においてそれぞれの役割を果たすことができたと自己評価できる。大学の充実のため、責任をもって取り組んでいきたい。

社会貢献活動においては、社会貢献に関しては、東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会 事務局長兼会計（2024年度）として事務局移転の手続き、会計事務、定例研究会の開催・運営を行うことができた。

次年度も、教職員の方々と協働し、地域諸機関との連携を深めながら、研究活動、教育活動、社会貢献活動に積極的に取り組んでいきたい。

以 上